

薬の伝言板

～インフルエンザ～



No.217 2015年12月

丸子中央病院 薬局

「インフルエンザ」は、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。

◇ 風邪とインフルエンザの違い

	風邪(普通感冒)	インフルエンザ
発症時期	1年を通じて散発的	冬季に流行
症状の進行	緩徐	急激
発熱	通常は微熱(37~38℃)	高熱(38℃以上)
発熱以外の主症状	くしゃみ、のどの痛み、鼻水、鼻づまりなど	全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛、咳、のどの痛み、鼻水など
原因ウイルス	アデノウイルスなど	インフルエンザウイルス

インフルエンザに感染すると、1~3日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱や筋肉痛などの全身症状が現れます。健康な人であれば、その症状が3~7日間続いた後、治癒に向かいます。気管支炎や肺炎を併発しやすく、脳炎など重篤になる場合もあります。

◇ インフルエンザに感染すると…

感染

約1~3日

発症

約1~3日

約1週間

軽快



インフルエンザ
ウイルス



- ・38℃以上の発熱
- ・関節痛、筋肉痛、頭痛
- ・全身倦怠感
- …などの全身症状



- ・咳
- ・のどの痛み
- ・鼻水
- …などの呼吸器症状



◇ 季節性インフルエンザ

インフルエンザウイルスには強力な感染力があり、いったん流行すると、年齢や性別を問わず、多くの人に短期間で感染が広がります。日本では毎年11月～4月に流行が見られます。飛沫感染(くしゃみや咳などで唾液や鼻水が小さな水滴となって飛び散ること)により感染するので、咳エチケットなど周りへの配慮が必要です。

◇ インフルエンザワクチンが変りました

インフルエンザの予防に効果が期待できるのがワクチンの接種です。流行シーズンを迎える前の11月ごろの接種をおすすめします。

効果が現われるのはおよそ2週間後からで、その後約5カ月間持続するといわれています。

重症化の予防や高齢者の死亡を減らす効果があることが知られています。

昨年まで、3種類のウイルス(A型2種類+B型1種類)に対して効果のあったインフルエンザワクチンでしたが、今年はB型も2種類に対応するようになりました。そのため、従来より費用が高くなったように感じる方がいらっしゃるかもしれません。



◇ 薬物治療

インフルエンザの治療には、ノイラミニダーゼ阻害薬というウイルスの増殖を抑えるお薬を使います。

- イナビル吸入 ……1回のみ吸入薬です。
当院では、受診の際に吸入していただいております。
- タミフルカプセル……1回1カプセル1日2回の内服薬です。
- リレンザ吸入 ……1回2吸入1日2回の吸入薬です。お薬をセットしてから使用します。
- ラピアクタ ……注射剤です。

インフルエンザウイルスは増殖のスピードが速いため、症状が出現して48時間以内にウイルスの増殖のピークがきます。このため、48時間以内に使用しないとお薬(ノイラミニダーゼ阻害薬)の効果が現れにくくなります。この薬は、ウイルスの増殖を抑えて感染の拡大を防ぐお薬なので、発症後できるだけ早く使用を開始することが重要です。

このほか、発熱症状を緩和するために解熱鎮痛薬(カロナール)、咳に対して咳止めなどが処方されることがあります。

※解熱剤の中には、インフルエンザの時は使用しない方が良いものがあります。自己判断では服用せず必ず医師・薬剤師にご相談ください。



外出時にはマスクを着用したり、帰宅時には「手洗い」「うがい」をする、栄養と休養を十分にとる。など、一般的な感染症予防策も重要です。